

資料と公共性 : 2022年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院

清原, 和之
島根大学学術研究院人文社会科学系 : 准教授

村野, 正景
京都文化博物館 : 学芸員

市沢, 哲
神戸大学大学院人文科学研究科教授 : 教授

他

<https://doi.org/10.15017/6770679>

出版情報 : 2023-03-10. 九州大学大学院人文科学研究院
バージョン :
権利関係 :

3. 「中村哲九大プロジェクト」と「哲縁会」

九州大学は、アフガニスタンにおいて、長年医療、社会活動に従事した故中村哲氏の活動を伝え遺すため、「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」を立ち上げた。2021年には、活動母体であったペシャワール会との相互協力協定を締結し、同会協力の下、さまざまな活動を展開している。なかでも、附属図書館内に設置された「中村哲医師メモリアルアーカイブ」は、プロジェクトの重要な活動基盤であり、同年、基幹教育総合科目の中に解説された「中村哲記念講座」とも連携関係にある。

ここで特に注目されるのは、2020年7月にプロジェクトが実質的に発足した時点から、学生主体の運動が公的な活動に伴走していたことである。同年9月に、九州大学がペシャワール会の協力を得て開催した最初のイベント「共に歩み ここに生き 未来を照らす 中村哲先生の想いを繋ぐ会」において、講演者とのジョイントフォーラムを運営した学生たちを中心とした活動がそれであり、その後「哲縁会」と改称して、活動を継続している。

ここでは、この学生団体に発足時から参加し、現在代表を務めている野中諒さんに、プロジェクト全体と「哲縁会」を紹介いただくとともに、図書館が運営する「メモリアルアーカイブ」との関係について論じる論考をご寄稿いただいた。野中さんは、現在、九州大学文学部歴史学コース西洋史学専門分野（研究室）3年生で、第一次世界大戦後のアルザスにおける傷痍軍人のケアをテーマに卒業論文を準備中である。2022年9月には、九州大学が優秀な学部学生を表彰する「山川賞」を受賞された。

一民間団体による社会運動の記録と記憶の保存と継承が、大学という公的な研究・教育の場と連携してプロジェクト化されるということ、附属図書館がその情報資源管理の場であるとともに、さまざまな活動推進役と位置づけられていること、さらに、そこには大学内外の関係者、特に学生の自発的関与がみられることなど、ここには、本共同研究のテーマである「資料と公共性」に直接関わる重要な問題が現れている。価値と関与の多様性の尊重と、信頼される資料情報資源管理との間には、ときに緊張、対立の関係も生まれるが、「専門性」を標榜する大学が、そこでどのようなアクターとなりうるのかも問われているといえよう。なかでも重要なのが、大学の構成員の中核をなすはずの学生の関わりであり、共同研究にも多くの学生の積極的な参加を得てきた。本共同研究の問題関心や活動と密接な関係を持つと考えられる事業について、学生の立場から原稿をご寄稿いただいた野中さんに、厚く御礼申し上げます。